

令和5年度 第4回学校運営協議会議事録

静岡北特別支援学校 南の丘分校

1 日時 令和6年2月14日(水) 午前10時から正午まで

2 参加者 校長、部主事、進路指導主事、教務課長
学校運営協議会委員 6人

氏名	役職
相羽 裕介 様	静岡市役所駿河区役所地域総務課地域防災係係長
石田 幸彦 様	富士見学区自治会連合会会長登呂二丁目自治会長
加藤 孝枝 様	南の丘分校PTA会長
炭田 直哉 様	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 静岡支部静岡職業能力開発促進センター 所長
田代 信一 様	静岡市駿河区保護司 (防犯予防担当・防犯予防副会長)
若狭 秀和 様	浅野・若狭法律事務所 弁護士

3 目的

- ・今年度の学校経営について評価いただくとともに、次年度に向けての学校経営計画(案)について、御意見をいただき、次年度の経営計画をより良いものにする。

4 内容

(1)校長挨拶

本日は令和5年度最後の学校運営協議会です。委員の皆様には本年度も1年間、南の丘分校の学校経営、そして教職員の指導や生徒の学習の様子を見守っていただきありがとうございます。

本日は、皆様に、私たち分校の教職員が行った令和5年度の学校経営における自己評価を聞いていただき、その上で、皆様のお立場、皆様目から見た本年度の分校経営に関する評価をしていただく機会です。今年の活動報告、進路状況報告、不祥事根絶取組を報告させていただきます。皆様にはお手元の評価実施用紙に御意見を記入いただく時間をつくらせていただきます。また、休憩をはさみ、令和6年度の学校経営計画案をお示しし、それに対する御指導や御意見、御助言を伺います。

いつも皆様には、活発に御意見をいただくことができ、時間が短く感じるこの委員会ですが、本日も、限られた時間の中、なるべくたくさんの皆様の御意見を伺ってまいりたいと思います。

(2)令和5年度学校自己評価報告

- 活動報告 ※以下、令和5年度学校経営計画の取組目標の項目に沿って報告
 - ・各教科の目指す姿を明確にした教育課程再編

- ・「学び、考え、発信し合う」姿を引き出す授業の充実
- ・業務のスリム化と教職員の時間への意識向上
- ・自分の安全と健康を守る環境づくり
- ・分校の存在感の発信と地域活動の充実
- ・進路希望実現に向け、本人が納得して進む進路指導



○進路状況報告

- ・各学年の職場実習先の業種の傾向、高等部3年生の進路状況
- ・職場実習の評価を受けて、自己分析し、家庭、担任や進路指導課長と話し合いながら次の実習先や日々の生活の課題を明確にする取組み

○不祥事根絶取組について

- ・昨今の教職員の不祥事により学校に対する厳しい目があることを常に意識
- ・南の丘分校独自の取組みとして、8月体罰事案から考える人権に配慮した関わりについてグループワークやスクールロイヤー職員研修を実施した

(3) (2)に対する御意見、評価

- ・交通事故1件に対して、時間に余裕をもった登校等、十分な指導を継続して行ってほしい。
- ・セクハラ・パワハラ0件について、引き続き意識して学校として行ってほしい。
- ・今年度も自治会館等の清掃について、地域としては大変感謝している。先生方の指導の賜物であると感じる。
- ・防災に関わる学習で、生徒が地域を回って避難所や防災倉庫等の災害時に必要となる場所の地図を作成してくれて、自治会館に掲示をさせてもらった。地域への貢献となる活動を今後も続けて行ってほしい。それ以外にも学習発表会等の行事でたくさんの人と関わっていくことが卒業後の力になっていく。

- ・ハラスメントは、何をもちて0件、1件とするのか、基準を教えてください。

ハラスメントは例外こそあれ、やってやろうと思ってやる人は少ない。仕事への熱意によって起こったり、当人にとって、よかれと思ってやったことが受け取る側は、ハラスメントと捉えられたりすることもある。最近ではジェンダーについてあえて言及することがハラスメントと受け取られる事例もある。

→(学校)記述式のアンケート結果から0件と報告した。小さな声を拾っていこうとするのが今の流れであることを理解し、今後の学校経営に活かしていきたい。

- ・生徒アンケートの回答結果が低調なことについて、生徒が思っている自分と教員側から見た

生徒の実態等に乖離があるからなのか、乖離が大きいと実際の指導に活かすことが難しいのでは、と感じる。また生徒自身が、質問に対して100%できていないと「できた」に回答できないと思っているのか、教員側の捉えを知りたい。

・普段の生徒の様子から見ると「いいえ」が多数になるのは、外部から見ると気になるところである。選択でなく、具体的に記述してもらっただけでもよいのでは。

→今年度、生徒アンケートは3件法(はい、いいえ、わからない)とした。中立的選択肢が増えれば増え得るほど、生徒の回答は不明確になると考えられる。来年度は、質問の内容自体を生徒が理解しやすくする必要があると考える。質問の設定の時点で十分な検討を行いたい。

・保護者目線から子どもを見ると、3年間進路を決めるまで学年を経るごとに自分のよさや長所について家庭で本人と話し合うことが増えていった。時間を取って『個別の教育支援計画』を見直すことで改めて子どもが取り組んできたこと、頑張ってきたことや課題が分かるようになった。学校との連携が取れていたと感じる。

特性上、自分の気持ちを伝える力は3年間を通してついたところはあるが、言いたくも言えない本人の様子を見て、いつも本人の気持ちに寄り添って、適切な方法を考えてくれた学校に対して感謝している。苦手なことに対して声を掛けたり一緒に考えたりしてくれる人がいることが子どもたちにとっての大きな力になっていると考える。

・パワハラについて学校を卒業してからの指導・支援についてはどう考えるか。

→学校在学中には、日常生活面でコミュニケーションに係ること、「保健」の授業等で取り扱っている。職場実習中にトラブルになる事例も実際にあるので、事案に対して子どもたちがどう受け止めているのかを聞き取り、どのように対処するのがよいかを個別に指導・支援している。そのような指導・支援が卒業後に生きてくることを期待する。

→令和6年4月1日からは事業者への合理的配慮が義務化となり、すべての事業者に合理的配慮の提供が求められる。子どもたちの卒業してからの社会環境がそうなるのかを注視しながら、誰もが安心して生活できる社会づくりをしていきたい。

・他学年との指導の系統性や教科等横断的な視点で年間指導計画の反省・改善について、じっくり検討されていて素晴らしいと思う。ただ、今後想定しない展開や新年度入学する生徒の実態に合わせて柔軟に幅をもたせていくために、過去の担当者が当時の生徒の実態から、どのような意図をもって設計したのかについても確認するといいかと思う。

・自立活動を1年やってみたことで見えてきたことがあるかと思うが、活動ありきになりやすいため、変わっていく子どもの実態に合わせてステップアップを組んでいけるといいと思う。

・生徒指導上、あるいは外部との活動のなかで、指導の必要性が生じた場合にも、いつもの自立活動の内容にこだわらずに差し替えることなど、柔軟に子どものニーズに対応していくことも必要と感じる。

・生徒はまわりの期待に合わせて動くことはできるので、「わかっているだろう」と周りが思って

も、本人たちに十分に言葉にできるほど、行動に移せるほどにできるわけではない、というのが彼らの切ないところ。来年度はそうした支援ニーズを踏まえた支援指導の発展を目指してもらえると嬉しい。

- ・交流活動について、彼らなりの傷つきや難しさを理解した上での目標設定が必要なのではないかと考える。

(4)令和6年度学校経営計画(案)について

○令和6年度学校経営計画(案)について
説明

分校は20周年の節目、本校は50周年の節目となる

教育目標は変わりなし。学校、地域、家庭、子どもたちが関わる人とともに共生社会を歩んで行ってほしい

○計画(案)について御意見、改善点等特になし。



(5)まとめ、御礼の挨拶（校長より）

それぞれの立場から、たくさんの御意見を伺うことができたことに感謝している。

生徒アンケートの質問の仕方や、数値の設定の仕方等については、具体的に来年度の経営計画案を見直してみたいと思う部分がたくさんありました。

またたくさんの意見をいただき改めて感じたのは、どれも本当に南の丘分校のことをよく分かった上で、生徒や私たち教職員を応援してくださっている応援のメッセージだったということです。

皆様からの声を生かし、これからもよりよい分校づくりに取り組んでいきたいと思っております。